

# 夷隅郡市タウンミーティング

平成18年7月16日（日）いすみ市の農村環境改善センター

## 福祉と医療を考える

嘆きでさえ、福祉に携わる人が、耳を澄まさないとの確かなニーズの理解はできないと痛感しました。福祉サービスが実際に立ち上るまでには、様々な種類の、厚さの違う「壁」が存在すると思ひ知ら

支援を必要としている深刻な発言を聞いて、映画の中で俳優、織田裕二さんの「事件は現場で起きているんだ。会議室の中なんかじゃない！」というセリフを思い出した。まさに、タウンミーティングの当事者の生の発言を聞いて「福祉ニーズは、生活の現場で起きているんだ。机の上なんかじゃない！」と感じました。当事者のつぶやき、



実行委員長

長谷川 政二

夷隅郡市タウンミーティング



2006年10月 秋号

Vol. 9

編集

長生・夷隅

地域福祉ネットワーク  
(代表：森田雄司)

〒297-0073

千葉県茂原市長尾 2694

中核地域生活支援センター

長生ひなた

TEL 0475-22-7859

FAX 0475-22-7844

印刷：さくら印刷

題字：白井達也さん

されました。例えば、精神障害者の福祉を立ち上げようとすると、住民はおろか、親族でさえ精神障害者の認識に関して「先入観という壁」があることです。まず、この壁を越えてサービスを実行するには、多くの努力と忍耐力が必要です。また、法律間、官庁間の壁、実は既存の施策と新しいニーズとの整合性の軋轢で、10年以上も立ち塞がっている壁もあります。それは、「福祉有償運送等に係る道路運送法第80条第1項による許可の取り扱いについて」平成16年、国は障害者の移動支援について一定の見解を示しています。これを、我々の地域でどこまで、ニーズに沿った



運用ができるかは、行政担当者だけではなく、事業提供者、利用者、学識経験者等の福祉に対する深い理解と情熱に左右されます。この場を借りて、タウンミーティングに参加していただいた住民の方々、いすみ市長はじめ県市町の行政担当者の皆様、そして、裏方を務めたボランティア、実行委員に深く感謝します。最後に、当事者、そのご家族で生の声を聞かせていただいていた方々、サービス提供事業者として現場の素直な問題点をを出していただいた方々、そして、既に率先してコーディネートとして地域で活躍している方々に感謝しつつ、次の機会にも是非、参加していただければ幸いです。福祉サービスを実践していく上で、様々な「壁」はありますが、私ども実行委員会は福祉のネットワークの核として、このような活動を継続していく所存です。この地域の福祉力の胎動を、批判もいただきながら、皆様に興味をもって育んでいただきたく願います。



(長谷川 政二)

# タウンミーティングで語り合われたこと

## 《いづものい》

◆虐待を受けた少年からの訴えは会場の多くの人の心に響きました。最も弱い立場の自分からは訴えることもできず、それに気づいてくれた大人の存在によって、彼が夢見ていた「普通の生活」につながりました。

## 《高齢者のこと》

◆伝統を知り、地域での役をこなせる人材が高齢化しています。一方で、新住民が増えています。伝統的な相互扶助の代わりになるような仕組み作りが必要という発言。「横のつながりの意味」



費負担増の問題、生活を支える介護の問題。特に医療を受けたり、生活を送る上での移動の問題は、この地域の大きな課題の一つです。

## 《障害者のこと》

◆高齢者と同様に、移動の問題があります。また、介護者の高齢化の問題もあります。



かなありません。

◆精神障害者の長期にわたる社会的入院の実態はこの地域内にもあります。歴史的な差別や偏見の残る地域。気力を奪われ、自活能力が低下していく当事者。この両方に目を向けながら「できること」とは何なのか、提案がなされました。

## 《医療のこと》

◆病気などで家にいる方々の生活の質の問題。当事者にも家族にも心のケアが必要です。

◆たくさんのお年寄りが、在宅で暮らしています。医療行為の必要な重度障害児もいます。親は、学校にも同伴しなければならぬ実状です。これに対して、医療従事者や介護スタッフの質と量の確保が困難であることもまた実状です。

## 実行委員会よりみなさんへ

今回のタウンミーティングにおいては、当事者の方々や支援をする側の方々から、この地域で本当に困っていることを必死で語っていただき、そのことを多くの人で聴き合い、考える場となりました。どれも重い課題であり、すぐ解決に結びつくことは困難かも知れません。しかし今後につなぎ、地域を作っていくための活動を開始します。

地域の課題をみんなで〈理解する〉ための勉強会を開きながら、そのために何ができるか、様々な立場で話し合っていくことになりました。お互いに力を合わせることによって、一歩でも二歩でもこの夷隅の地域が、あたたかな地域になることを願い、実行委員会は『夷隅郡市地域づくりネットワーク（夷隅支部）』として再スタートを切ります。



※4ページに夷隅支部新代表の挨拶掲載

（池口紀夫・馬場崎雅子）



## やつみ寮

『今世紀半ばには、少子、高齢化の進展により、単身者や、要援助者が増大し、様々な共同生活の形態が生み出されるであろうことは必然的な流れです。』

**\*今後、新たに展開されるであろう共同生活住居の先駆的試みとしての観点から\***

長生ひなたの障害者グループホーム等支援ワーカー菊地隆夫が、知的障害者生活ホームやつみ寮（設置者は社会福祉法人九十九会 理事長 齋藤茂）をお尋ねしました。

## 地域の福祉力

生活ホームやつみ寮は外房線八積

駅から南に徒歩で

10分程度のところ

にあります。そこ

こは、閑静なところ

に住宅が点在する

農村地帯に位置

し、一軒の住居と

して、周囲の住宅よりも、比較的早く建てられました。今から、15年程前のこと

になります。新築移転のため、齋藤理事長はじめ、法人の職員が木を伐採するところから始まりました。

生活ホームやつみ寮の開設は平成元年の5月です

ので、すでに18年以上が経過しています。現在、住

人は55人、利用者さん4人、世話人さん常勤1人

に補助1人、体験入居も可能です。

運営の基本方針は、利用者さんが日常生活を支援

なく営むための適度な援助を行なうことで、ごくあ



たりまえで、自然な生活を通して「豊かではりのある暮らしづくり」と「各人各様の主体性を大切に」していくことを基本としているそうです。

やつみ寮の住人は各人が各様の仕事に就き、自分の生活を自分で支えていけるようにすることが基本となります。世話人さんは、住人が気持ちよく暮らし、働くことが出来るように「プロデュース」することを最大の任務としています。

住人の一人Oさんは、「他人との共同生活なので、個人行動は程々にし、みんなと合わせなければなら

ないけど、世話人さんの人柄も良く、よき相談相手になっていただけるので、気持ちよくやっています。また、職場も理解ある上司や責任者に恵まれて長く続いています。希望としては、いつまでも利用可能なことを望んでいる」と語ってくれました。

また、別の住人Mさんは、半年ほど前から

近くのデイサービスセンターへボランティア

として通っています。

す。当初は半日、週3日から始めて、しばらくして午前9時から午後5

時15分まで活動するようになっていきました。

今は、毎日元気に自転車

で通い、作業やレクリエーション活動と、楽しい日々を過ごしています。同じように別のデイサービスセンターにヘルパーとして勤めているMさん、勤めて

約半年、職場の理解と楽しい雰囲気の中で気持ち良



く働いています。

やつみ寮での生活

と職場での生活、

変化に富んだメリ

ハリのある生活を、

そして自分の趣味

を持つなど文化的

な活動も考えてい

けたらと思います。

この先がとても楽

しみです。もう一人、法人の福祉施設の環境整備の

仕事をしているTさん、長年に渡って施設の環境整

備を一手に引き受けて頑張っています。それぞれ皆

元気に日々を過ごしています。そしてこれからもこ

の生活が平安に続くことを願っています。

**\*GH等支援ワーカーの視点から今後の業務の進**

**め方を考えるにあたってのキーワードとして\***

様々な事情によって解体された家族と地域社会・

「場所的空間としての地域、地縁・血縁・集落共同

体」を、緩やかな心地良い新しい空間として、人と

人とのつながりを重視した、コミュニケーション空

間としての地域・「知縁」・「結縁」・（相互援助を媒介

とした）共同生活住居という新しい暮らしの枠組み

として創造していきたいと思っています。

それは、人と人とのつながりの中からこれまでの

人間関係と価値観を問い直す、新しいライフスタイ

ルの創造を一人一人の人生設計（ライフプラン）の

問題として考えていくものでもあります。

（障害者グループホーム等支援ワーカー・菊地隆夫

## 「地域ネット」

夷隅地域づくり  
ネットワーク

（地域ネット夷隅支部）

夷隅郡市タウンミーティングを終え、実行委員会が新たに地域ネットの夷隅支部として始動しました。新代表よりご挨拶いたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

〈事務局〉

中核地域生活支援センター

夷隅ひなた

TEL 0470-609123

\*\*\*\*\*

この夷隅郡市タウンミーティングで最初感じたことは、テーマの範囲が広い中で1人3〜7分間の話し合いでは、話し手・聞き手と共に満足ではないかと思っていました。

こんなに短い時間で「話し合い」

ではなく「話して終わった」タウンミーティングは失敗ではないのか？お手伝いをする中で様々な方と知り合い、楽しく協力し合って本番まで参加させて頂き感謝しているのですが、正直に話せばそれが本当に感じた思いました。たった3分のために苦勞して出てきてもらっても話し切

れずに終わってしまい申し訳なかったのではないかと・・・

しかし当日話していただいた方は、「家族や周囲には話せなかった問題を話せてよかった、今まで話せる場所がなかったのでこの場を作ってくれて感謝しています。」他の人も同じように悩んでいることを知り勇気付けられました。」など喜びの声を聞いて改めて考えさせられました。

深く話し理解してもらったことより、聞いてもらうだけでも救いになり、それぞれの抱えた問題の深さや大きさを感しました。話せる場所の大切さを感じました。



渡邊宣明さん

これからも夷隅郡市タウンミーティングに参加された方を中心にもっと話し合い、もっと深く係わりあって困った！”変わってほしい！”を共に探して行きたいと思います。

（渡邊宣明）

## 長生夷隅地域福祉ネットワーク

まっ白い広場研究会

ついに「まっ白い広場」公開！

実践を重ね、準備をしてきた、子どもが主役となる遊び場「まっ白い広場」。いよいよ公開に踏み切りました。事前に睦沢町内の幼稚園、小



中学校に、私たちの思いを書き込んだチラシを配布。ポスターも貼りだし開催を通知しました。

8月5日、どれだけ集まるだろうか？そんな心配をよそに、当日はスタッフも含め140名もの参加があり、とても賑やかでした。（睦沢町内の参加人数は56名）子どもの参加は全体で69名でした（内睦沢の子どもは31名）。

実施内容は、①自然の木や川、地形を利用した遊び

②火を使っておやつ作り ③宝探し

ゲーム・・・

とにかく、写真のように子どもたちが自然の中で思い



切り、目を輝かせて遊んでいました。

また、保護者の方も、時には一緒に遊びながら、積極的に子どもを見守って下さっていました。参加者からは、「こういう広場を待ち望んでいた」といった声や、「睦沢にはこんないいところがあるんだね」といった



声が聞かれ、「今後も継続して実施して欲しい、参加したい。」という声が、子ども、保護者双方からあがっていました。

また、様々な団体の協力もあり、水鉄砲作りや、マジックショーなど、楽しい特設コーナーも盛況でした。

課題点は、この広場の持ち味である「川」の水質。子どもたちが思い切り水遊びのできる、きれいな川にしたいとの願いであり、環境改善にも取り組んでいきたい考えです。

今後は月1回程度の頻度で実施し、活動が徐々に地域に定着していくよう努めていきたいと考えています。皆様も是非遊びに来て下さいね。

（座長 柴田敬道）



## GHI創ろう会

## 母里子ネット

## 「さんぽ」

最近散歩のすごさを感じる事があった。母里子の二階に三十代半ばの男性と母親が夏の暑い日に一泊した。以前より「駆け込み寺の場所がほしい」と相談を受け「二階を自由に使用して下さい」と答えたのだ。宿泊の翌日朝五時に散歩をして母里子の庭を掃いてくれていた。

もやもやしている時に散歩すると頭の中が整理できるから毎日あるいているんだと聞いて、そうなんだと思った。

私の散歩はその昔、住んでいた近くの羽田空港

そばの土手を散歩して飛行機の離発着を見るのが好きだった。思えば何とも暗い小学生時代だな。

散歩されど散歩なり。これひとつにしても同じ屋根の下で暮らしを創る時、お互いを知る事、理解する事、共有する事も大事だぞと思えた。なんだかある意味夫婦になる以上に難しそうだ。母里子の二階はとても意味のある場所に思えて来た。



## 「一足早いお月見会」

9月9日第二作業部とKOKO ARA会の年期の入った皆さんと一足早いお月見会をおこなった。四時から集まりまずはビールで乾杯しないと幕が開かない。だんご、お好み焼き、おにぎり、唐揚げ、どれも母里子の職員が早くから手作りで頑張った。野外お月見はそれなりにムードがあった。甘いなしの差し入れがありテーブルが更ににぎわった。うれしいのは人が人を誘って来てくれる事。第二作業部は行事と抱き合わせて宿泊訓練を試している最中だが、続けていると求める方向が見えてきそうな気がする。チャンスは自分でつかむのも自立の一歩だ。今回は12月に予定している。

がする。チャンスは自分でつかむのも自立の一歩だ。今回は12月に予定している。

（座長・汐田千恵子）

※障害者居宅介護事業所

特定非営利活動法人

母里子（もりこ）ネット

長生郡長生村北水口350番地

TEL・FAX 0475（32）4347

## つなぐ会

## 医療をつなぐ会

医師や看護職員の偏在が言われていますが、2月県議会予算委員会病院局を傍聴した際、県立看護師養成所でも卒業生40人のうち県内に残るのは10人くらいだそうです。地方に魅力がなく、都市部へ就職するそうです。

在宅介護を続けてきた義父の認知症がひどくなり、在宅では支えきれなくなり入院となりました。動けるようになり介護度が下がり、サービス量が減ってしまいました。訪問介護、看護、医療が必要な時に使えれば、もう少し在宅でいられたかもしれません。

入院先の医師から「認知症老人を病院はみたりません」といわれましたが、医療アンケートでやった内容が、高齢者にもあてはまります。

地域医療が崩壊する前に、この地域でどう生きるのか、最期を迎えるのか、まじめな議論をしなければならぬと思っています。



（座長・内山和江）

## 防災研究会

8月中ごろ九州に上陸した台風は非常に速度が遅く、TVの表示では「ゆっくり」となっていました。昨年頃から、台風の動きが怪しくなっています。以前は、本土に近づくに従って、速度が上がりましたが、近年の台風の動き方が、そのようなことになるのは、天候の変動で気圧配置が違ってきているためでしょうか？こんなにゆっくりと台風が通過すると、帰り道に当たった住民は長い時間風雨にさらされるので、大変です。



防災は、一人一人の心がけ次第ですが、「来るかもしれない、来るかもしれない」と思いつつ、日々の暮らしを続けていくのは気の重いことでもあります。そして、災害が起こる確率はそんなに高くありませんので、いつの間にか忘却のかなたという状態に陥りがちです。「災害は忘れたころにやってくる」というのは、こんな人間の気持ちの持ちようにも関わることでしょう。油断大敵、日々の生活の中に防災を取り入れましょう。

（座長・佐藤八十八）

誰もが ありのままに その人らしく 地域で暮らせるために  
～僕は「本納から創る」～

地域で暮らす人の声を政策に反映させるシステム。そんなことの出来る千葉が大好きです。

木村さんの実弟は10代半ばで統合失調症に罹患しました。以後、弟さんの世話に多くの時間と労力を費やしてきたそうです。しかし、その弟さんも数年前に亡くなりました。「生き残った者の負い目ですよ」そう語る木村さんは50歳から福祉の仕事に携わるようになりました。弟さんの介護に明け暮れた当時、精神医療の現状を目の当たりにして、「なん

「30数年間、弟のケアという経験が無ければ、今の仕事をしていなかったらうなあ……」



きむらきよし  
木村 潔 さん  
特定非営利活動法人  
スペースぴあ  
理事長・精神保健福祉士

## ひとの福祉力

とかしなければという思いで一杯だった」そうです。

精神疾患による障害は、日常生活、就労場面、対人関係などに現われるため、「生活のしづらさ」とも言われます。病気になったことで生活のしづらさを抱えるだけでなく、精神疾患の悪いイメージや、精神障害者に対する根深い「偏見」が当事者の暮らしを孤立したものにしていまいがちなのです。

「偏見」は当事者が社会参加するうえで大きな壁となっています。「偏見」は社会の側にもあります。家族、当事者の側にもあります。家族や当事者自身の内にある偏見は、必要な援助を求めることの妨げになってしまいます。

木村さんは弟さんの障害をオープンにしました。自分が精神障害者の家族（兄弟）であることも



スペースぴあ皆さん

オープンにして活動してきました。「うつ病は10人に1人、統合失調症は100人に1人の一般的なものです」多くの人々が心の病について正確な知識を持っていないためかもしれません。あるいは、他の分野の研究に比べて精神医学が遅れているのかもしれません。いずれにしても、統計的には決して珍しい病気でも特殊な障害でもないのに、偏り見られていることは確かな事実です。

小説やドラマ、映画などに取り上げられる精神病についてはどうでしょうか。ニュース番組で報道される精神障害者が起こした事件についてはどうでしょうか。「恐い」とか「何をするかわからない」「関わらないほうがよい」などと思ってしまうのは自然な反応かもしれません。

そのような価値観に満ちた世の中で、精神障害の当事者、家族として声をあげることは決して容易いことではないのです。それにも関わらず、あえてそうすることには、何か益があるのでしょうか。

「命懸けで福祉に関わっている大勢の仲間との出会いが僕の支えです」誰かに受け入れられること、自分が必要とされていると感じること、

自身の存在を認められること、それらは人間が生きるために必要不可欠な条件にちがいありません。

人は何でも目に見える事柄で判断しがちです。しかし、本当に大切なことは目には映らないものです。

「熱意のあまり誰かを傷つけてしまったことが何度もあるんですよ……」人の心の奥深いところにあるものを汲み上げるには、なんと洞察力が必要なのでしょう。もちろん、優しく思いやる気持ちは欠かせません。

木村さんはその思いを形にするべく「スペースぴあ」を創りました。「地域には彼らの暮らしに必要な資源が少ないのが現状です。僕はそれを本納から創っていく。そして、もっともっと広げていきたいんです」

（大河原博人）



ぴあの部屋



一番館



二番館



# 夷隅 長生 ひなたのページ

## 中核地域生活支援センター

### 【オレンジ会】

夷隅ひなたのたまり場から生まれた「オレンジ会」が独立した会となってから、まだ日が浅いのですが、新しい活動へと踏み出しました。それは、いすみ市が始めた市民参加の事業提案募集にオレンジ会が応募し、プレゼンテーションをした結果、選ばれたのです。主旨はこのいすみ市におけるバリアフリー調べです。調査の上で、バリアフリーを実現していこうという活動です。オレンジ会のみなさんはやる気満々です。市民参加型の事業展開として、また当事者活動としてとても意味のあることだし、今後の成果が期待されると思います。

（池口）



### 【夷隅障害者部会】

8月31日に今年度第2回の「障害者部会」を開催しました。自立支援法が10月から本格実施になる時期を控えて、当事者の方々にとって、「これなら大丈夫だ」というように先が見えるような話にはまだならなかった、のは残念でした。市や町としては共通して、現在のサービスを後退させないという方針は示されているのですが、現在のショートステイやデイサービスが確実にどこで利用できるのか、費用はどうなるのか、まだ見えません。最も見えな

いことは家からサービス事業所までどうやって行くのか、帰りはどうなるのか、それがはっきりしないとそれらは使えません。また、社会参加はどうなるのか。それらを含めてく

移動支援がどうなるのか、福祉の有償輸送に関する「運営協議会」はどうなっているのか。これらのことがクリアされないと福祉サービスも社会生活も可能にはならないでしょう。市や町や事業所さんの一層の努力が求められます。

（池口）

### 【子育て相談・情報提供事業】

県の事業である「子育て相談・情報提供事業」を夷隅、長生の両ひなたで受託しました。この事業は、この地域で子育てをしている親御さんが支援を必要としたときに、そのニーズにそってどこに求めたらよいのかが分かるように、地域の資源の情報を集めて、すぐ使えるように住民に提供するものです。これから子育てのニーズを確認しながら、情報の収集に入る予定です。地域の関係者の皆さまの御協力をお願いします。

（池口）

### 【長生たまり場】

長生ひなたでは、毎月1回、「たまり場」と称したイベントをやっています。ひなたがお付き合いさせていただいている方たちと、お休みの一日をのんびりワイワイ過ごします。



自宅から外に出る機会が少ない方たちが外出する機会になればいい。

これまでと少し違った人たちと付き合うことができる機会の一助になればいい。勿論、皆が楽しく過ごせる一日を創りたいと思い、開催をしています。

最近では、猛暑の一日に涼やかな「流しそうめん」をやったり、食べ放題バーベキューをやったりしています。

毎月、不定期の開催ですが、第3日曜日にやることが多いです。まずはどうぞ遊びにいらしてくださいませ。

（渋沢）

### 【地域医療・在宅医療の充実支援事業】

昨年度行ってきた、千葉県リハビリテーションセンターとの協働事業を今年度も委託を受けて行うことになりました。県内14の保健福祉圏域の中、野田圏域と長生・夷隅圏域が受託して行きます。



日常的な医療行為が必要な方に求められる在宅医療、訪問医療や医療福祉の連携のあり方を考え、在宅医療に携わるスタッフに必要な手技をリハセンタースタッフ等から教えていただきながら、当地での在宅医療福祉のあり方を考えていこうという予定です。

詳細のお問い合わせやプログラムのリクエスト等、大歓迎です。

（渋沢）

### 【その他…】

・千葉県で中核地域生活支援センター事業が始まって2年になります。県の連絡会等でこの事業のあり方を検証する作業を関係機関と一緒にすすめています。

・中核センターが行っていることは、「ケースワーク」や「ソーシャルワーク」のあり方を問い、実践しながら発信していくことです。

・「障害者自立支援法」や「介護保険」の改革等の中で、このことがどのように位置づけられていくのかちょっと不安。

・それぞれの立場でのこれまでのあり方を、これからどうつないでいくか、しっかり考えたいものです。

（渋沢）

# ひなたの人



題字を書いてくださった方

白井達也さん  
21歳

自分の身体の機能に合わせた専用キーボードでパソコンを使いこなして、広報ひなたの題字を3パターンも作ってくれました。特技を活かせる仕事に出会えるように、欠かさず練習しています。

## ＜編集後記＞

野外イベントなどにも参加しやすい、気持ちのよい季節になりました。そんな中、「クロスワードパズル」にはまりこんでいます。没頭する時間というのも結構良いものです。気づくと3時間経過…そんな落とし穴もありながら…（ば）

## いすみオレンジ会・レポート

いすみオレンジ会は障害者の会で、ボランティアさんに手伝ってもらいお出かけ会をしています。場所を決めて下見に行き、これまでに色々な所に出かけました。障害を持ったからと言って家に居るばかりで無く、外の空気の中でしか出来ない食事、買い物、見学をして1日を過ごします。あるときは映画を見に行ったり、また美しい花を見に行き、四季の季節にあった普通の人が当たり前に行っている事を楽しんだりしています。

外での食事をし、人と話すことが自信にもつながります。まだまだ1年ぐらしか経っていないオレンジ会ですけど、長生のKOKOKARA会を見習ってこれからも色々な事にチャレンジをしていきたいと思います。

代表：滝口明美

問合せ：0470-62-3604



上：アウトレット・コンサート長柄  
左：マザー牧場

## ☆平成18年

お知らせ

11月11日（土）、12日（日）

「子どもあそびひろば」

会場：茂原榎町商店街

時間：午前10時から午後4時

・オープニング・セレモニー

11月11日（土）午前10時

太鼓衆 楽（Rakus）

・フィナーレ・セレモニー

11月12日（日）午後3時

茂原市立東中学校吹奏楽部

・むかしあそび、しぜんあそび、フドーパーク、体験コーナー…

## ＜参加費＞

（保険料含む）

パスポート 1日券 100円

2日券 200円

## 〔主催〕

茂原榎町商店街振興組合

NPO法人ナルク茂原「いちごの会」

## 〔協賛〕

長生夷隅地域福祉ネットワーク

他、多数

## 〔お問い合わせ〕

茂原市役所商工観光課振興係

0475（20）1528

NPO法人ナルク茂原「いちごの会」

0475（26）5229

☆平成18年11月26日（日）

「よつちやばる」こだままつり

・古民家シンポジウム

・チャンプラーズ公演（from 沖縄）

・喫茶、ランチ、バザー…

## 〔お問い合わせ〕

特定非営利活動法人こだま

睦沢町北山田172

## 長生・夷隅地域福祉ネットワーク

障害のある方をはじめ、お年寄りからお子さんまで、当事者のご家族と支援者の幅広い参加をお待ちしております。

## 入会申し込み・問い合わせ

事務局：担当

千葉県茂原市長尾 2694

TEL

FAX

メールアドレス

渋沢 茂

中核地域生活支援センター長生ひなた

0475（22）7859

0475（22）7844

hinata.tyousei@lilac.plala.or.jp

郵便振替口座：00180-9-610398

（名義：長生夷隅地域福祉ネットワーク）



会員：本会の趣旨に賛同する個人及び団体

会費：年額1口 2,000円